

柚
山
法
式
帳

杣山法式帳

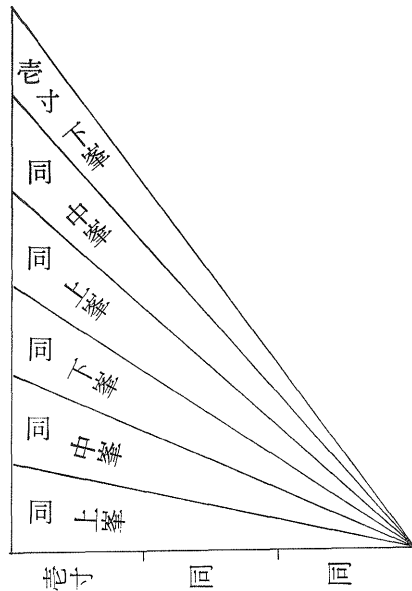
(乾隆二年)

杣山見様之事

一山之急立候傍は峰地と申亦平立候傍は嶺地と申候嶺地と峯地勾倍次第上中下有之候其見様図に記之

一左右高山にて其間底地之平に有之候所は澗地と申候亦嶺地之前に向居候高山は対峙と申候嶺地之後に有之候高山は祖山と申候左右山之高く同様にして相向候は相対峙と申候亦山氣之不洩様諸山之相囲候を抱護と申候亦抱護左右之手先にて衣裳之領を打合候様に入違候所

を抱護之閉と申候事



一嶺地依場所上中下有之候抱護無不足対峙高卑遠近之列合丈夫有之候所は上敷にて候対峙高く候とも抱護一方相欠候か亦は対峙抱護相揃候とも余り遠相離れ氣之詰様不宜所は中敷にて候対峙卑抱護一二ヶ所相欠氣之洩候所は下敷にて候事

一峯地も上中下有之候抱護高寄詰候所は上敷にて候右通寄詰候ても抱護之欠所所有之候は中敷にて候抱護欠所無之候とも遠相離れ氣之詰様不宜所は下敷にて候事

一 瀾地に上中下有之候瀾地之場所広有之候所は上敷にて候左右嶺地之間に有之候瀾地は中敷にて候左右峯地高立候間に有之候瀾地は下敷にて候事

一 山敷之儀嶺地は陰陽和生之地にて一番敷地に候峯地は純陽不生之地にて二番之敷地に候瀾地は純陰不生之地にて三番之敷地に候事

附平地広大之所は嶺地之差次に諸木能生立申事に候得とも右之地方は田畠仕用に從往古山敷被召除

置候

一 嶺地之場所如何にも広く有之候所を專一に可見立候大船之櫓木は嶺地上位之内如何にも広有之候場所より可致出来候其心得を以杉杯差付能致盛生候様に入念候儀肝要候事

一 嶺地広有之候所は縦令抱護對時無之候とも樹木相應生立申候亦兩方卑き嶺地之裔に相統候所は瀾地迄も相應に生立候事

一 對時高抱護相勝候嶺地は其頂迄諸木能盛生仕候然とも嶺地之裔對時近く寄詰瀾地に似掛り候所は樹木勝不申

候嶺地對峙之間依遠近善惡有之事候亦對峙卑く嶺地高有之候所は對峙之頂より相下り候所は諸木相應に生立上之方は立兼申事候抱護之卑も同断候事

一 峯地之内に少々嶺地相交候所も有之亦嶺地之内に峯地相交候所も有之候其見分け可有之事

一 嶺地對峙之間に卑き岳有之候は、夫とも嶺地同前に諸木能生立候左右之峯地高立候間に卑き岳有之候者瀾地同断にて然々之木生立不申候亦右峯地之間広く候て其場所へ卑き岳有之候は、瀾地之上敷より相増候事

一 杣山之儀人作次第盛衰有之候抱護堅固相閉諸木能立候得は山氣相含諸木自然と高く立延其山盛り申積に候亦抱護閉口之諸木伐開候得は山氣相洩山奥迄漸々諸木相痛其次に生立候小木は高不相立終には藪山と相成候依之抱護閉口之場所可成程外一番之閉口より樹木植茂り候儀專一に候若畠敷少く百姓飯料難統所は無是非二番抱護より可閉置候事

附抱護閉口之場所より致山工候儀不可然候

一作毛之儀は土地之性相撰申事候得共杣山之儀は土性不

相構山形次第樹木善惡有之事候依之杣山敷地之儀は題目山形を致吟味候然共右敷地之内山敷にして雖為不相応之所諸木植付候得は始ては立兼或曲木に成候得共漸々と山氣を含其次々小木よりは能立延可申候間山敷針竿之内は少も明地無之様に可入念事

一 抱護之内辰戌丑未四ヶ所の方相欠候所は四維之病として樹木絶て盛生不仕候其内一ヶ所にては相閉候得は其病相迦候山敷見立候此儀は能々氣を可付事

一 大木より惣て小木立延素生相勝候山は盛生之始と可心得候亦大木より惣て小木之素生相劣候は、其山衰微之始と可心得候事

附致山工候砌小木とても能立延候素生之木は相嗜置

候儀肝要に候

一 対峙並抱護遠近高卑之列合は能々我氣を以て見計可有之候此儀は口上にて難申述候右に記置候箇条之趣を以て山敷数見込次第自然と可致合点候此段可為題目事

杣山養生之事

一 杣山之儀山敷見様之法に申述置候通抱護題目就中其閉口は杣山盛衰之氣脈に相係り別て肝要に候然処右之閉口焼開伐明置候付て山氣相洩山奥迄漸々相痛小木之素生前々之木より相劣終に杣山致衰微候向後右之心得を以て抱護閉口之樹木能々入念別所よりも早々盛生させ候儀可為專一事

一 田畠は折々草を取除段々養生致し五穀盛生させ候杣山之儀も同断候処跡々は捌庫理頭を始百姓等迄右之訳無案内に付て樹木立兼杣山及衰微候然は田畠草取同前と申事は山工人山入致し候時樹木之内抜群立延可申素生之木は相嗜其余の木より用事之長程見合伐取之尤伐捨候木之枝は隣所之木に不障様に可捨置候亦百姓手明之砌杣山為養生或は四五人或は七八人山入致し曲木曲枝並落木にて隣所之木に相障候等伐除亦両木摺合候木は一本伐捨候敷兩木共其儘立置候敷見合肝要に候亦小木之梢に相障候枝則々可伐除之候右之心得を以て何れも入精候は、小木自然と素生能罷成其山盛立候儀案中に候檜木いくかしの木椎木いぢよ杯の類は不及申に其外

の木とても件之通養生致し候儀田畠草取同断と申事候
此了簡可為肝要事

一 杣山に付て右通入念候は、一日には老人にて樹木七八
百本十人にて七八千本程相助可申候村々件之通入精候
は、諸山毎に材木相揃其後は何分山工致候ても杣山の
衰微絶て無之却て山工致候程其山養生に罷成申積に候
跡々は山工之法並山敷見様之法無案内にて抱護之閉所
焼明尤樹木之養生絶て無之我増伐取候を第一に仕候故
小木立兼曲木勝に成行上敷山は中敷に相成中敷は下敷
に相成下敷は藪山に相成候右通山敷之位以前に相替候
に付て山工人共も最早遠方に罷越致山工手隙を費候儀
甚以て愚昧之至に候向後能々入念山法之通相働候は、
小木立延藪山迄も樹木相揃山工も致安く百姓之為勿論
之事候国頭方中頭方諸山之儀何方も従前々山位抜群相
劣候儀畢竟山法無案内故に候此段能々可有了簡事

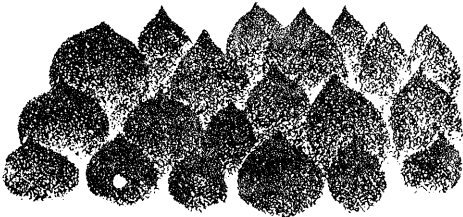
遠山樹木見様之事



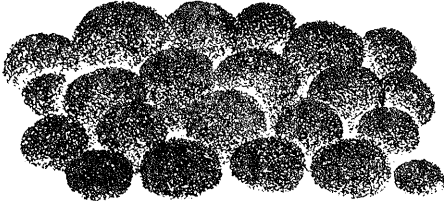
右図之様に樹木之梢相揃延立候所は若山と可心得候事

柚山法式帳

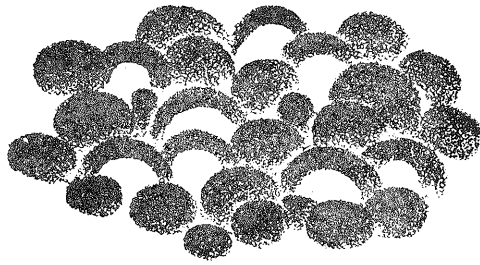
右図之様に相見得候山は樹木程来相揃盛初之山と可心得候事



右図之様相見得候山は盛生相究候山と可心得候事



右盛生相究候山右通所々ふげ目相見得候は〔、〕其所材
木伐取為申と可心得候事



右通竹之枯枝之様に所々木白枝相見得候山は能木猶残り
候得共大木多伐取候山と可心得候事



廬山法式帳

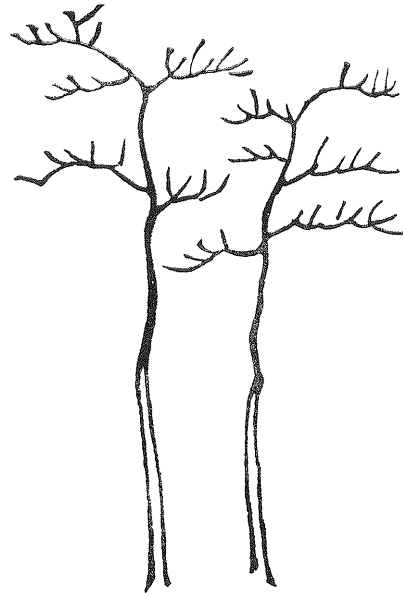
右通木之白枝過半曲枝逆枝に相成候山は能木稀有之衰山
と可心得候事



右通枯大枝並枯木等諸木より差出相見得候は、至極相衰
候山と可心得候事



右通木之枝葉相茂り芝草を詰候様相見得候山は藪山と可
心得候事



右通諸木之儀其真之梢相まがり四方に枝差候は其高相究
り候木と可心得候事

右之通堅固可相勤者也

乾隆二年丁巳三月

評定所

識名親方

具志頭親方

伊江親方

北谷王子

山奉行